



今年の夏は猛暑続きで、夜も熱帯夜…クーラーは一日中フル稼働でしたね。9月に入りましたが、暑さはまだまだ続きそうです。しっかりと水分補給を行ない、十分な休息をとり、無理のないように保育を行っていききたいと思います。保護者の皆様方も連日の熱暑にお疲れのことと思います。体調には十分お気をつけいただき、朝食をしっかりとって、この暑さを乗り切っていただければと思います。

9月18日は敬老の日です

今年は18日が敬老の日にあたります。敬老の日は多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、また長寿を祝う日です。核家族化が進み、日常生活では高齢者と一緒に過ごす機会が少なくなりがちです。それでも高齢者との交流で子どもたちは、普段私たちが与えられない、素朴で心温まる話や知恵をもらえます。またおじいちゃん、おばあちゃんにとっても、子どもたちの純粋な笑顔やお話は、最高の贈り物になっているようです。まずは一番身近で、大好きなおじいちゃん、おばあちゃんに「いつもありがとう。いっぱい長生きしてね」と伝えるのもいいですね。遠方に住んでいて、普段会えないおじいちゃん、おばあちゃんには電話などでお祝いの気持ちを伝えてみてはいかがでしょうか。



今年も元気な子どもたちの写真と一緒に、感謝の気持ちををはがきにのせて、お送りします。



「子どもの育ち」は親しだい？

シンブル育児の正解
(主婦の友社)より

子どものために、できるだけことをしてあげたいと思う一方で、「子どもの才能を伸ばすのは親しだい」と言われてしまうと、責任の重さを感じて不安になります。

子どもが「幸せだった」と思える幼児期にしてあげたい

子どもが優秀に育つかは半分は運みたいなもので、どんなひどい環境でも天才は生まれるし、両親が高学歴でも、子どもが勉強以外の道を志す場合もあります。それもまたおもしろいわけで、子どもは親の望むとおりに育つとは限らないと考えておいたほうがいいでしょう。

幼児期に親ができることといえば、子どもにできるだけ多様な経験をさせてあげることでしょうか。別に外国に行くこと

が英会話を習うということではなくて、水辺に行く、動物にさわる、植物を育てる、外遊びをするなど、徒歩で行ける範囲での経験でじゅうぶんです。

成長したわが子が「ああ、自分の子ども時代は楽しかったな」と思えるのか、あるいは「悲惨だった」と思うのか、それは親しだいともいえます。幸せな子ども時代にしてあげること。それがいちばん大事な親の仕事ではないかと思います。



9月の予定

- 1(金) 防災集会・引渡訓練
- 6(水) 調理保育(くま)
- 8(金) 流しそうめん(幼児)
- 11~15 身体測定
- 12(火) 交通安全教室(幼児)
- 15(金) 敬老の日会(らいおん)
- 21(木) 音楽指導(幼児)
- 22(金) お誕生日会
- 25(月) 職員園内研修
- 25(月) 体育指導(幼児)
- 28(木) 運動会総練

10月の予定

- 3(火) 職員会議
- 7(土) 親子運動会
- 14(土) 親子運動会(雨天)
- 16~20 職場体験(羽1)
- 16~20 身体測定
- 17(火) 調理保育(らいおん)
- 18(水) 音楽指導(幼児)
- 18(水) 職員園内研修
- 20(金) 園外保育(2~5歳)
- 23~27 職場体験(羽3)
- 23(月) 体育指導(幼児)
- 24(火) 調理保育(ばんだ)
- 24(火) 避難訓練
- 27(金) お誕生日会
- 30(月) 芋掘り(4・5歳)

10月7日(土) 親子運動会



- *時間…乳児 8:30 幼児 10:00
- *場所…あさひ公園
- *雨天…10/14に延期

プログラムは
後日配布します

不要になった古タオルが ありましたら、 保育園までお持ち いただくと助かります

前回、古タオル寄贈をお願いした際には多くの方よりご協力いただきありがとうございました。今回また雑巾用のタオルが足りなくなってきましたのでお願いをさせていただきます。もし不要な古タオルがありましたら担任までお渡しいただけると助かります。



9月1日は防災の日



本日、保護者の皆様にご協力いただいて「総合防災訓練」を実施させていただきました。訓練内容として、[防災集会(災害時の避難の仕方について)][災害時の避難体験(ドライアイスで煙を発生させた中での避難)][避難食による給食(アルファ米)][避難訓練(一時避難場所への移動→保護者の方への受け渡し)]を実施しました。



親子で防災チェック

●注意点や必要なモノをチェック

災害が起きたとき、やるべきことはなにか、またどんな物が必要になるのかを調べておきましょう。子どもと一緒に自宅周辺を散歩しながら、避難場所までのルートも確認しておくといいですね。



身の周り、家の周りの危険性を確認しましょう。
落下・転倒防止対策を行いましょう。
火災防止対策を行いましょう。
身の安全を守る行動をとれるようにしましょう。
家の中の安全チェックを行いましょう。
○家の中でどこが一番安全か
○避難場所、避難路はどこか
○非常持出袋はどこに置いてあるか

●非常袋は子ども用品も忘れずに

非常用のアイテムをまとめて用意しておけば、もしものときにすぐに避難できたり、ライフラインがストップしてしまったときの備えにもなります。セットで売られている一般的な非常袋には子ども用のアイテムは入っていないので、おむつなど年齢に合わせて必要なモノを用意しておきましょう。

ミルク・哺乳瓶・授乳ケープ、離乳食・おやつ、歯ブラシ、ウェットティッシュ、紙おむつ・おしりふき・おむつを入れる消臭袋、下着・洋服、子ども用の防災頭巾、子ども用の薬、子ども用マスク、絵本・お給かき用のノート・おもちゃなど



災害緊急時の園からの連絡(変更)

「災害時用ホームページ」を設置していたブログサービスが、サービスの提供を終了したため、今後災害緊急時における保育園からの連絡は、「保護者専用ホームページ」内に行わせていただきます。緊急時における安否情報についても、一斉メールに合わせ「保護者専用ホームページ」でも発信させていただきます。

赤ちゃんがいる家庭

●地震に備えたお部屋の見直しを！

赤ちゃんの場合は、ベビーベッド周りを、おすわりしたり、一人遊びができる赤ちゃんなら、日頃遊んでいるリビングなどの空間で、ものが落ちたり倒れてくるものがないかを確認しましょう。



●地震に備えたお部屋の見直しを！

タンスなどは倒れないように固定したり、タンス自体は倒れなくても、タンスの上に乗せている箱が落ちてくることもありますから、別の部屋に移動するなどしましょう。倒れ防止の突っ張り棒もありますが、可能なら壁に固定してしまう方が、安心です。赤ちゃんが過ごす空間にテレビがあることも多いと思いますが、地震でテレビが倒れてくることがあり、要注意です。地デジ化などでテレビが薄く大型になっている場合もあります。テレビ画面は不安定ですから、ひもなどを使って、壁に固定するなどしておきましょう。ものが多くて、安全な空間の確保が難しい場合には、テーブルの下に突っ張り棒のように補強できるものが、ホームセンターなどで売られています。そのようなものを利用するのも一案です。



●地震が来たときの、とっさの行動

ママやパパが赤ちゃんと一緒にいれば、赤ちゃんと自分の安全の確保をしましょう。とっさの場合、安全な場所に移動できず、赤ちゃんを守るためにママやパパが覆い被さるということもあるかもしれませんが、ママやパパが負傷して動けなくなると、赤ちゃんを避難させられなくなります。基本的には、一緒に身を守ることを考えましょう。キッチンで煮物中など、火を使っている場合も、最近では基本的に自動的に火が消える設計になっているコンロも多あります。別な部屋から、急いで火を消しに行くよりも、まずは赤ちゃんと自分の身を守り、落ち着いてから火を消しましょう。大きな地震で、移動が可能ならガスの元栓も切っておきましょう。キッチンは、食器や包丁など、倒れたり落ちてくると危険なものが多く危険です。赤ちゃんと一緒にキッチンにいた場合は、火を消して、安全な場所にすぐ移動しましょう。